

指 導 係	指 導 員	吉 田 周 蔵
"	"	西 山 と み 子
"	汽 かん 士	中 川 一 郎
能 登 川 支 所	技 術 吏 員	坪 井 明
"	"	勝 木 嗣 治
"	"	内 藤 静
高 島 支 所	"	堀 井 利 男
"	"	前 川 春 次
"	主 事 補	中 村 務

昭 和 3 6 年 度

# 業 務 報 告

滋 賀 県 織 維 工 業 指 導 所



# 序 言

本年の繊維業界に課せられた大きな問題として、貿易の自由化が強く論ぜられて来ましたが、大した影響もなく終始いたしました。政府の所得倍増計画に基づいて、各産地とも生産設備の増強と近代化が遂げられ、消費景気の波に乗って業界は活況を呈するに至りましたが、9月頃より輸出不振と生産過剰から景気は下降しはじめ、公定歩合の引き上げと金融引締の強化は更に拍車をかけ、加速度的に不況の度を増して来ました。本県繊維業界も、一部の品種については、この反響を受けて、不振となりましたが、総体的にみて、好調な市況を堅持し得ましたことは、喜ばしい次第です。特に過剰生産や、過当競争をさげ、常に堅実な経営基盤の上になつて、伝統ある特技を時代に融合せしめた結果と言えるでしょう。

然し、今後に対処するためには、更に高度な技術が要求されますので、当所の開放工場や、試験室の整備と試験機械器具の充実とを計り、試験研究指導体制の基盤を確立して、本県唯一のサービスセンターとしての使命を完遂いたしたいと全所員とともに全力を傾注しています。特に特産製品の高度化と、新製品の創案による新販路の打開とによつて、業界の総合的な発展を遂行してまいりました。

茲に、昭和36年度の業務概要を報告いたしまして、各位の参考に供するとともに、御批判を賜りたくお願い申し上げます。

昭和37年6月

滋賀県繊維工業指導所

所長 小川 藤 蔵

## 目 次

序 言 .....	1 頁
I 試作試験に関する事項 .....	2
II 技術指導に関する事項 .....	8
III その他の指導業務に関する事項 .....	10
IV 指導所に関する事項 .....	13

# I 試作試験に関する事項

## 1. カシミアロンモケット

### 目的

アクリル系繊維の熱可塑性を応用してミンク加工を施し永久セットとしての風合と、比重の小さい繊維による織物の高高性能を検討する。

### 設計概要

使用織機 大隈二重ビロード織機

原料 経地 綿糸 80/2

パイル カシミアロン 2/52

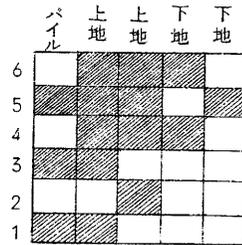
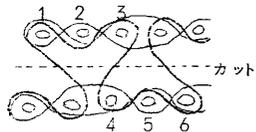
緯 綿糸 30/2

密度 簇 9羽/cm

打込 23本/cm

引込数 地4本 パイル1本 計 5本/羽

### 組織



### 結果

二重に織って上下二枚をパイルでカットするのであるが、パイル長について種々試験したが、何れもパイル長が不十分であり、又パイル原糸は織布用糸で撚が多い為パイルに撚が残り、更に密度が多かった為加工は不十分であつたが今後の研究に伴う指針を得ることが出来た。

## 2. エラスチックカーペット

### 目的

合繊紡績糸の弾性と合成撚糸の電着加工によつて毛布に劣らぬ弾力性と落着きのある敷物の試作を目的とする。

### 設計概要

使用織機 大隈二重ビロード織機

原料 経地 綿糸 80/2

パイル スパンナイロン 28/2

カシミアロン 28/2

緯 カシミアロン 2/64

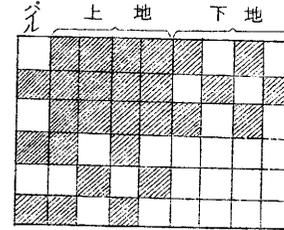
電着 カネカロン 10d カット長 3mm

密度 簇 4.18羽/cm

打込 13.5本/cm

引込数 地8本 パイル1本 計9本/羽

### 組織



### パイルの割合

スパンナイロン 2  
カシミアロン 1

### 結果

パイル長の変化によつて弾性の変化が極めて甚しい。短かければ重量感と粗悪性が多く、又長すぎれば腰がなく敷物とした場合沈む様に感じられ、パイル長 5mm位で適当な剛性と立体感、重量感を有し弾力性に富んだ敷物が得られた。

## 3. カシミアロン輪擦毛布

### 目的

アクリル系繊維の小さな比重とバルキー性で軽く適度の保温性に富み従来からの概念である起毛毛布と異つた輪擦にて保温性と触感を持たせる夏向き毛布を試作研究する。

### 設計概要

使用織機 原田式タオル織機

原料 経地 カシミアロン 2/64

毛 " 2/52

	緯	カンミロン	2/64
密度	筵	10.7羽/cm	
	打込	19本/cm	
引込数	輪擦部	地1本毛1本	計2本/羽
	縞部	地2本	計2本/羽
縞割	輪擦部	19羽	縞部2羽
組織	両面パイル	3本緯	タオル組織

結果

一応初期の目的を達し得て非常に軽く、嵩高性のある夏向き毛布を得ることが出来たが、普通タオル組織でパイルがルーズになった為、これが抜けて来る恐れがあり加工或は組織にてパイルをセットする必要が認められた。

4. シーツ地

目的

最近寝具関係の需要が高まって来ており、県下で生産されている麻織物の技術を活用して変り組織によるもの及びクレープの強燃技術の併用によつてクレープシーツの試作を行なう。

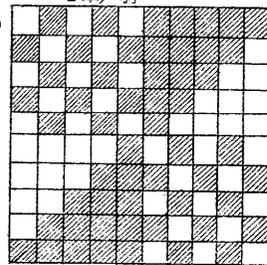
設計概要

使用織機	豊和式力織機
原料	経 麻スフ混紡糸 16/1
	緯 (1) " 16/1
	(2) クレープにするものはこれを1800 T/M 強燃とす。

密度	筵	10.3羽/cm
	打込	20.0本/cm

引込数 2本/羽

組織 (1)



(2) クレープシーツ地は平織

結果

(1)の変り組織は織上後密度は粗い様に見受けられたが精練晒と加工が進むに従い収縮し密となつてシユランク仕上になれば20%以上収縮し、粗硬な感じを受けるが普通仕上で10%前後の収縮でタッチのいい風合となる。又クレープシーツ地のものは良好なシボ立ちが得られ業界指導に資し生産に入っている。

5. クレープシーツ地

目的

先のシーツ地を高級化し更に品質向上を計る必要を認め盛夏時のクレープシーツを研究する。

設計概要

使用織機	豊和式力織機	
原料	経 ポリノジツクスフ 30/1 擬麻加工	
	緯 " " " 700 T/M 施燃	
密度	筵	13.4羽/cm
	打込	21.7本/cm
引込数	2本/羽	
組織	平織	
その他	緯糸は0.2%の油剤にて下漬し湿式法によりリング燃糸機で施燃す。	

結果

経緯共擬麻加工を施してある為多湿度で製織すれば高能率が得られ、燃糸は湿式でなければ所定の燃は得られ難いが上記方法にて行えば製品は良好なナミシボ立で涼味感のある、吸水性に富んだシーツが得られ業界指導の指針となった。

6. ナイロン変り織り

目的

現在市販されている婦人用ヘアークリップは、合成樹脂の成型加工品又はワイヤーの芯にサラン布を覆つたものが多くこれ等に代るべきものとして、本県で生産されている有線ピロードの技術を応用した製品の試作研究を行う。

設計概要

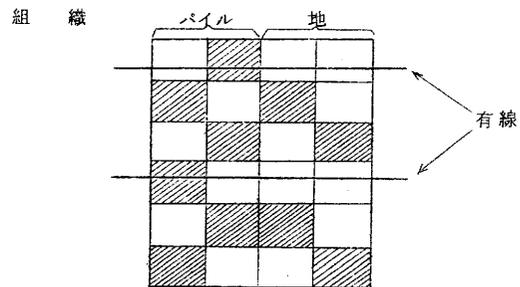
使用織機	動力式ピロード織機
------	-----------

原料 経地 ナイロンモノフィラメント 1400D  
 パイル " 350D  
 緯 " 1400D

密度 箆 9.84羽/cm  
 打込 5.51本/cm

引込数 地2本/羽 又は地2本+パイル1本本/羽

編割 緯部 3羽でこの中央部1羽にパイル1本挿入  
 間隔 2羽とし1柄76羽使用



結果

初期の目的を達し得て業界を指導せんとしている。見本生産を終り本格生産に対処すべく準備を進めている。

7. 絹混紡縮緬

目的

合繊フィラメント系を使用した縮緬はしばしば見受けるが紡績系使用の縮緬を試作研究し従来の縮緬と比較検討する。

設計概要

使用織機 北陸機械式絹人絹織機

原料 経 絹・テトロン混紡絹紡糸 140/2  
 緯 " 140/2

生糸21中4本 引揃て混燃2700T/M S.Z.

密度 箆 25.1羽/cm

打込 21.2本/cm

引込数 2本/羽

組織 平織

緯糸越数 1越

結果

精練にて緯糸の収縮は大で従来のものより若干広く織上げて仕上を行い、膨らみがあり軽く、ソフトタッチで洗濯による収縮も少なく価格も安価な縮緬が得られたが現在染色法、仕上加工等についての検討を進めている。

## II 技術指導に関する事項

### 1. 巡回並びに実地指導 (昭和36年度)

月別 項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
織物及び製織について	12	17	12	14	10	24	80	42	51	43	43	38	386
製織準備について	13	11	6	17	10	23	40	30	24	18	29	25	246
精練漂白及び染色について	10	6	1	7	2	7	14	9	13	4	8	15	96
整理仕上加工について	10	7	5	4	1	7	11	8	10	8	4	13	88
意匠図案について	1	3	1	1	0	3	0	2	1	7	3	1	23
その他	20	10	7	5	21	26	19	18	10	8	10	12	166
巡回	14	23	38	7	15	0	0	0	0	0	0	0	97
計	80	77	70	55	59	90	164	109	109	88	97	104	1102

### 2. 質疑応答 (昭和36年度)

月別 項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
織物及び製織について	19	55	16	40	31	18	43	70	33	42	37	40	444
製織準備について	64	40	65	49	37	52	32	14	30	27	49	24	483
精練漂白及び染色について	13	13	15	9	9	8	20	10	17	17	20	25	176
整理・仕上加工について	13	20	22	12	10	5	12	18	16	16	18	15	177
意匠図案について	5	7	6	10	24	17	21	20	9	10	9	6	144
試験及び品質管理について	36	39	43	57	65	52	47	50	51	46	69	63	618
その他	13	19	13	21	39	15	26	22	22	28	17	21	256
計	163	193	180	198	215	167	201	204	178	186	219	194	2,298

### 3. 依頼試験 (昭和36年度)

月別 試験項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
番手	7	14	14	22	13	19	9	13	31	7	25	66	240
燃度	22	42	67	61	53	89	51	49	53	34	30	35	586
糸強伸度	50	67	71	85	88	48	37	23	50	51	52	148	770
糸抱合力	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4	7	12
糸測長	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
布強伸度	27	62	43	42	75	33	42	31	52	26	59	98	590
布摩擦	1	0	1	0	0	1	2	8	0	0	0	2	15
圧縮弾性	11	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	21
織物分解設計	27	61	42	55	77	31	44	48	44	59	83	73	644
物質鑑定	29	37	34	45	50	1	13	3	14	47	11	7	291
水分率	0	10	0	0	0	17	32	20	18	14	31	35	177
防しわ度	0	0	0	0	0	0	0	0	10	6	5	3	24
繊維系織物精練漂白染色仕上	1	1	0	0	76	5	3	11	2	5	8	4	116
染色堅牢度	2	0	3	11	0	1	17	13	16	0	2	6	71
図案調整	1	0	0	20	2	12	5	50	21	2	8	0	121
定性分析	0	1	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	4
定量分析	28	1	2	4	15	0	0	0	22	51	0	29	152
繊維混用率	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3
工業用水試験	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	3
計 (件)	206	298	277	346	450	267	255	272	333	302	323	513	3,842

9/7  
2925



6. 28	湖東繊維工業協同組合	60	織機取扱講習会
6. 27	高島織物工業協同組合	30	"
8. 22	本 所	40	縮緬研究会
9. 26	湖東繊維工業協同組合	15	図案展示会。
10. 23	"	11	染色整理研究会
11. 10	"	8	夜具地座布団研究会
11. 17	"	6	小巾織物研究会
11. 22	"	17	芯地研究会
11.7~9	本 所	130	機械展示実演会。
11.30~12.1	湖東繊維工業協同組合	30	巡回図案展示会。
12. 9	本 所	38	縮緬研究会
12. 19	"	6	ピロード研究会
12. 22	湖東繊維工業協同組合	14	芯地研究会
1. 22	"	11	小巾織物研究会

5 出版・刊行物

種 別	部 数	発行年月
織指ニュース ヌ5号	300	1961. 4
ヌ6号	"	1961. 7
ヌ7号	"	1961.10
業務報告 (昭和35年度)	120	1961. 9

19.8  
3  
19.4

~~業務報告~~  
~~業務報告~~  
の沿革

IV 指導所に関する事項

1. 組織

所長	庶務係	—	係長1	主事補2	汽罐士1	用務員1
	指導係	—	係長1	技師3	技師補2	指導員3
	能登川支所	—	主任1	技師3		
	高島支所	—	主任1	技師2	主事補1	

2. 敷地・建物

本 所	敷 地	5,654.02m <sup>2</sup>		
	建 物	1,064.00m <sup>2</sup>		
	物理試験室	72m <sup>2</sup>	図案室	18m <sup>2</sup>
	恒温恒湿室	36m <sup>2</sup>	開放工場	324m <sup>2</sup>
	化学試験室	54m <sup>2</sup>	汽かん室	20m <sup>2</sup>
	染色試験室	72m <sup>2</sup>	その他	468m <sup>2</sup>
能登川支所	建 物	793.4m <sup>2</sup>		
	事務室	37.95m <sup>2</sup>		
	その他	41.39m <sup>2</sup>		
高島支所	建 物	61.9m <sup>2</sup>		
	事務室	19.8m <sup>2</sup>		
	恒温恒湿室	21.5m <sup>2</sup>		
	その他	20.6m <sup>2</sup>		

3. 主要設備機械

布抗長力試験機	2	耐水度試験機	1
糸強伸度試験機	4	化学天秤	4
織 度 計	7	テンションメーター	5
検 燃 機	5	アムスラー型布摩擦試験機	1
フェードテスター	1	バイルレカパリングテスター	1
リーテスター	1	デユボツクス比色計	1
検 類 器	2	振切脱水器	1

直示天秤	1	静電気測定器	1
ストロボスコープ	3	マナー式試験機	1
写真引伸機	1	振盪機	1
オシロスコープ	1	迅速水分計	1
電気湯煎器	1	トーションバランス	1
熱風乾燥機	1	トルク計	1
顕微鏡写真装置1式	1	検尺機	5
イオン交換純水装置	1	カスタム摩耗試験機	1
水素イオン測定器	1	顕微鏡	5
紫外線物質鑑識器	1	圧縮弾性試験機	1
定温乾燥機	2	染色摩擦試験機	1
織物厚さ測定機	1	小型布染機	1
ラウンダーテスター	1	ストマー粘度計	1
糸抱合力試験機	1	堅型水管式ボイラー	1
小型マングル	1	力織機	10 (絹、綿、ビロード、タオル、自動)
表面温度計	1	準備機	1式 撚糸機、管巻機、繰返機、整経機、その他
防しわ試験機	1	経メリヤス機	1
蒸気発生機	1	試験用胴釜	2
ジェット乾燥機	1	経糸捺染機	2
分析装置一式	1	木製精練槽	3
噴射式紹染機	1	超音波発振機	1

昭和36年度歳入歳出決算  
 繊維工業指導所  
 支出

技成 型天 与歌

昭和36年度歳入歳出決算

歳入

科 目				
項	目	節	附記	決算額
使用料	産業経済使用料	繊維工業指導所設備		21,415円
手数料	産業経済手数料	繊維工業指導所試験等		227,090
	(款) 使用料及手数料			248,505
物品売払代				31,938
	産物売払代			29,288
	不用品売払代			2,650
雑入				12,120
	雑入			8,670
	賃貨料	県公社貸付料		3,450
	(款) 雑収入			44,058

歳出

科 目				
項	目	節	附記	決算額
繊維工業指導所費				13,809,042円
	職員費			9,567,905
		吏員給		5,133,000
		給料		1,638,000
		職員手当		2,796,905
			扶養手当	218,792
			暫定手当	19,880
			期末手当	1,439,736
			勤勉手当	439,770
			超過勤務手当	367,984

	特殊勤務手当	16,896
	通勤手当	95,497
	寒冷地手当	7,095
	宿日直手当	12,740
所 費		1,289,325
	旅 賃	12,577
	賃 金	4,350
	消 耗 品 費	90,103
	燃 料 費	152,865
	食 糧 費	63,931
	印 刷 製 本 費	7,281
	光 熱 水 費	20,254
	通 信 運 搬 費	150,994
	手 数 料	9,000
	借料および損料	1,020
	修 繕 料	223,965
	工 事 請 負 費	50,000
	備 品 費	131,969
	負 担 金 補 助 金 及 交 付 金	10,000
試 験 指 導 費		2,951,812
	旅 賃	286,960
	報 償 費	39,433
	賃 金	-
	消 耗 品 費	418,766
	燃 料 費	159,000
	印 刷 製 本 費	52,000
	光 熱 水 費	117,955
	通 信 運 搬 費	17,982
	手 数 料	108,872
	修 繕 費	231,934

		工 事 請 負 費	870,000
		備 品 費	648,910
県 職 員 費	(款) 産 業 経 済 費		1,380,904
	職 員 費	職 員 手 当	36,466
	(款) 県 庁 費		36,466
財 産 管 理 費			693,800
	維 持 補 修 費	工 事 請 負 費	599,800
	災 害 補 修 費	修 繕 料	94,000
	(款) 財 産 費		693,800
		超 過 勤 務 手 当	

6. 事業の執行

- イ 電動機及び伝導方式の改善  
開放工場設置の製織準備機及び力織機のベルト伝導方式を電動機直結式に改善し安全管理を行ふ。
- ロ 開放工場床張り工事  
開放工場全体を板張りとし土砂塵芥による製品の汚れを防止すると共に温湿度の調節に便ならしめた。

6. 職 員

所 長	技術吏員	小 川 藤 藏
庶 務 係 長	事務吏員	国 門 与 作
指 導 係 長	技術吏員	今 井 信 次 郎
能登川支所主任	"	中 村 貞 一
高島支所主任	"	野 々 下 増 三
庶 務 係	主 事 補	鹿 山 健 三
"	"	福 永 悦 子
"	汽 かん 士	中 川 一 郎
"	用 務 員	斎 藤 重 雄
指 導 係	技 術 吏 員	尾 本 豊 次
"	"	小 林 昌 幸

指 導 係	技 術 吏 員	川 口	浩
"	技 師 補	川 添	茂
"	"	木 村	忠 義
"	指 導 員	吉 田	周 藏
"	"	川 島	良 子
"	"	西 山	富 子
能 登 川 支 所	技 術 吏 員	坪 井	明
"	"	勝 木	剛 治
"	"	内 藤	静
高 島 支 所	技 術 吏 員	堀 井	利 男
"	"	前 川	春 次
"	主 事 補	中 村	務

昭 和 3 5 年 度

# 業 務 報 告

滋 賀 県 織 維 工 業 指 導 所